一般質問

◉町が重要政策と位置付ける産業振興と住みよい町づくりについて

今　勝吉議員

答弁：「深浦町人口ビジョン」「深浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、必要な施策・事業を展開している。

《今議員》

人口減少の克服、少子高齢化問題は、県や各市町村の最重要課題と位置付けられている。

産業振興や保健・医療・子育て支援のための財源を確保し、引き続き住みよい町づくりのために展開する当町の施策について伺う。

《町長》

当町としては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に倣い、町の将来的な人口減少抑制の具体的な戦略を明確にし、「深浦町人口ビジョン」「深浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「深浦町総合戦略」の目標設定や必要な施策・事業を展開しているところである。

深浦町総合戦略の基本理念は、

○産業振興と住環境改善を核とする「定住人口の確保」

○子育て社会を支える社会基盤の充実を核とする「出生率の向上」

○人口減少抑制に向けた「地域力の結集」の３点であり、基本目標と代表的な施策は次のとおりである。

《基本目標》

①産業・雇用対策として、地域の特性を活かした多様な就労機会の確保、地域における安定した雇用を創出

▲定住促進住宅「深浦住宅」

▲定住促進住宅「岩崎住宅」

②移住・定住対策として、転入者や観光等による交流人口の拡大

③安心して子どもを生み育てられる環境づくりに取り組み、自然豊かな当町において子育てをしたい若い世代の割合を高める

④都市と地域、圏域間をつなぐ町づくりの推進

《代表的な施策》

【産業・雇用対策】

大館畑作総合施設、６次産業化、サーモン養殖事業等

【移住・定住対策】

公営住宅整備事業

【少子化対策】

▲平成29年度に整備された新深浦診療所

第３子以降の祝い金交付、子ども医療費無料化の拡大、放課後児童クラブの実施

【地域活性化対策】

新診療所整備、健診無料化や住宅リフォーム等

農業の施策について

《今議員》

若い農業者を中心としたハイテク産業ＡＩ導入の大規模農業と大規模農園、冬でも栽培可能な農園の確立と生産・供給体制の改革と考えるが、今後の町の農業施策について伺う。

《町長》

ＡＩ（人工知能）導入による農業は、情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して「見える化」により、色や形、土壌の温度や湿度、病害虫の防除などを判断し、経費の削減、労働力の節約を図り、他の農業者・新規農業参入者に継承しやすくした高度な生産・経営を実現させるもので、当町におい

ては、舵作地区の２つの大規模農場がおおむね２５０ヘクタールを経営し、国で推進しているＩＣＴを活用したスマート農業を実践している。

また、大規模農家だけでなく、町内の農家の大半を占める小農家の支援施策も必要と思われることから、町では、基盤整備、次世代農業者支援交付金や経営所得安定対策交付金などを活用し、農業者の所得向上に努め、農業経営の自立を支援していくこととしている。

漁業の施策について

《今議員》

沿岸の海面漁業等（沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業）の漁獲量が低迷し、若い漁業者の収入安定や、海面養殖（つくる漁業・育てる漁業）への転換が急務となっている。

今後は、サーモン養殖の漁獲量の増大と魚介類の栽培養殖に取り組むべきと思うが、町の施策を伺う。

《町長》

深浦町の沿岸漁業の漁獲量は、数量では平成９年に約７８００トン、金額では平成８年に約40億円とピークを迎えたが、数量、金額ともに増減を繰り返しながらも、徐々に減少傾向が進み、昨年は数量で４２８６トン、金額で18億６千１００万円と、ピーク時の50パーセント前後まで落ち込んだ。その大きな要因として、ヤリイカ、スルメイカ、マス、タラ漁の減少が大きく響き、５年ほど前に豊漁であったマグロ漁も、近年の漁獲制限により、減少傾向となっている。

議員ご指摘のとおり、今後は、捕る漁業からつくり育てる漁業への転換が急務であることから、平成26年度から深浦町、オカムラ食品工業、弘前大学食料科学研究所が、サーモン養殖実証事業に関する三者連携協定を結び、当町に本社を置く「日本サーモンファーム㈱」を設立した。昨年９月には区画漁業権を取得し、深浦地区と北金ケ沢地区において、サーモン海面養殖が現在本格的に行われ、今年度は、１００トンの水揚げを予定し、数年後には２００トンから３００トンの水揚げが実現できるよう、町としても継続的に支援を続け、漁業者の雇用機会の増加や、次世代を担う漁業者の所得向上を期待するものである。

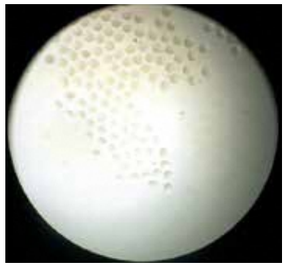
このほか、養殖業ではワカメの養殖に取り組んでおり、水揚げされた養殖ワカメのほとんどは「つるつるわかめ」の原料として活用されている。

▲放卵中の親ナマコ（人工採苗試験研究）

栽培漁業においては、追良瀬川及び笹内川にあるふ化場からサケやサクラマスの種苗放流が行われているほか、管内各漁協でアワビやクルマエビ、ヒラメなどの種苗放流を実施している。

ナマコについては、種苗放流をはじめ、卵から種苗生産する技術習得のため、漁業者が主体となって試験研究が行われている。

▲ナマコの放卵確認状況



▲ナマコ卵（顕微鏡画像）

今後とも、深浦町水産資源の増大を図るため、町と漁協及び民間企業が連携しながら、栽培漁業及び養殖業を推進していきたいと考えている。

観光の展開について

《今議員》

当町が誇る白神山地・十二湖・夕陽海岸の自然美、よそでは見られない国道１０１号線と五能線が日本海に面し並行して走る風景は、日本ローカル線人気ナンバーワンとなっている。

費用対効果を考え、中央から流動人口を受け入れ、町の活性化を図るべきと思うが、町としての今後の展開を伺う。

《町長》

今や五能線は国内において、押しも押されもせぬ「乗ってみたいローカル線ナンバーワン」のフレーズ・称号を確固たるものとし、ＪＲ東日本の徹底的なプロモーションもさ